

第三国集団研修事前調査報告書

—ブラジル・老人病学—

1993年12月

国際協力事業団
研修事業部

703
93
TAS
LIBRARY

研 三
JR
93 - 037

第三国集団研修事前調査報告書

—ブラジル・老人病学—

JICA LIBRARY



1117095(8)

1993年12月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団

27045

序 文

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤を持つ一定の開発途上国に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受け入れて、より現地事情に適合した技術、知識の移転を図り、これにより、開発途上国間協力の推進に寄与し、将来的には、実施国が独自に研修員受入事業を実施できるよう協力することを目的としている。昭和49年度、タイのコラート養蚕訓練センターで初めて実施して以来、年々、第三国研修実施協力要請は増え続け、平成4年度には23国で69コースを実施するに至っている。

ブラジルに対する第三国研修の実績としては、昭和60年度の「工業電気・電子」の実施以来、平成4年度末で5コースを数え、また同国自身も、他の最貧途上国等に対する援助実施機関としてABCを設立し、わが国の協力以外にも多くの途上国研修を積極的に実施している。

こうした背景の中で、わが国が1973年から5年間プロジェクト方式技術協力を実施したリオ・グランデ・ド・スル・カトリック大学付属成人病研究所は、第三国研修の実施機関としての能力を有しており、また本研究所で研究を進めている老人病学分野に対して周辺のラテンアメリカ諸国のニーズも高い。かかる状況から、ブラジル国政府は、我が国に、リオ・グランデ・ド・スル・カトリック大学付属成人病研究所での第三国研修を要請してきた。

これに基づき事前調査のため、平成5年8月30日から9月13日までブラジル国に調査団を派遣したが、本報告書は、その結果および協議内容を取りまとめたものである。

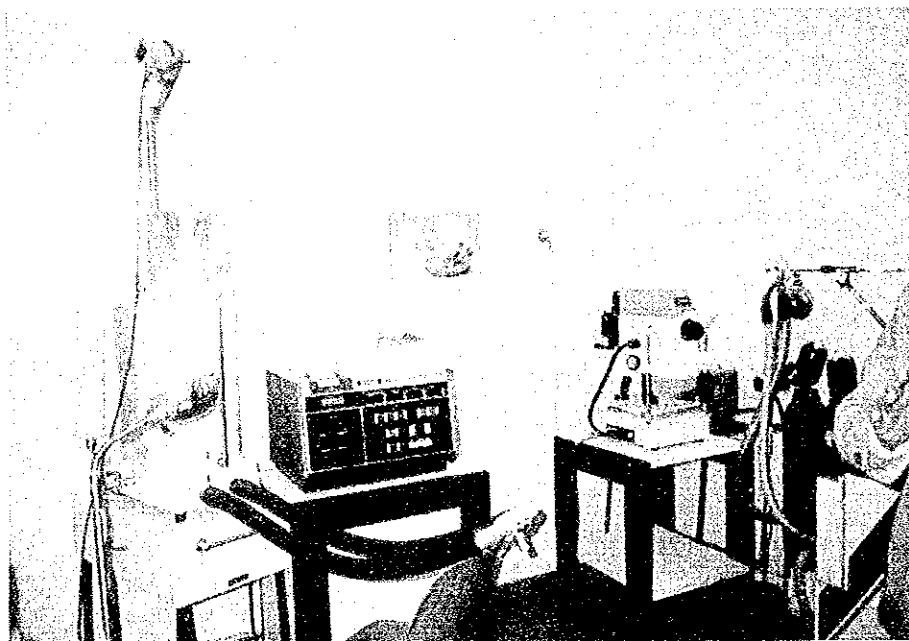
本件調査の実施にあたり、並々ならぬご協力を賜った外務省、杏林大学及び在ブラジル日本大使館、ABC、その他関連諸機関に対し深甚な謝意を表する次第である。

平成5年12月

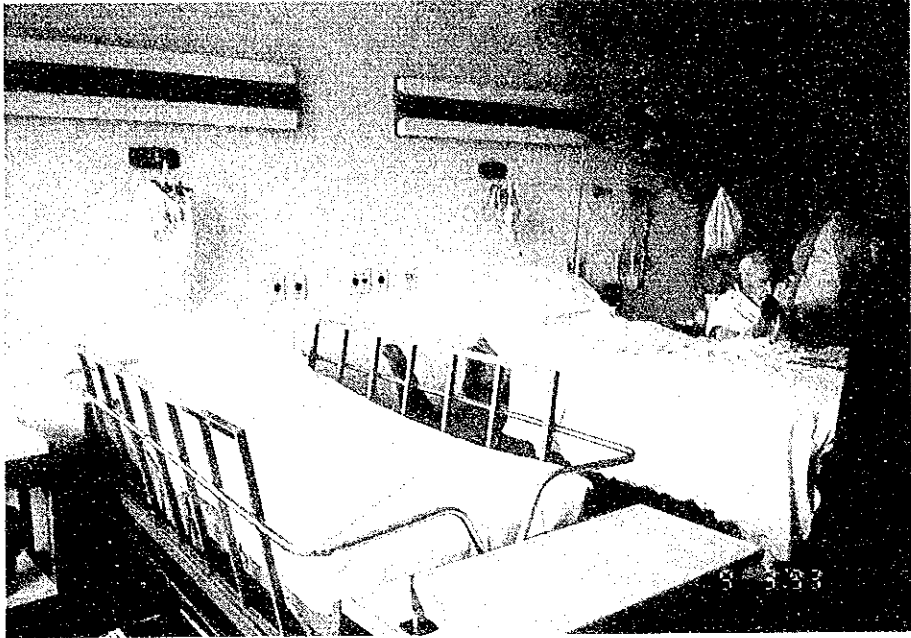
国際協力事業団
研修事業部長 庵原 宏義



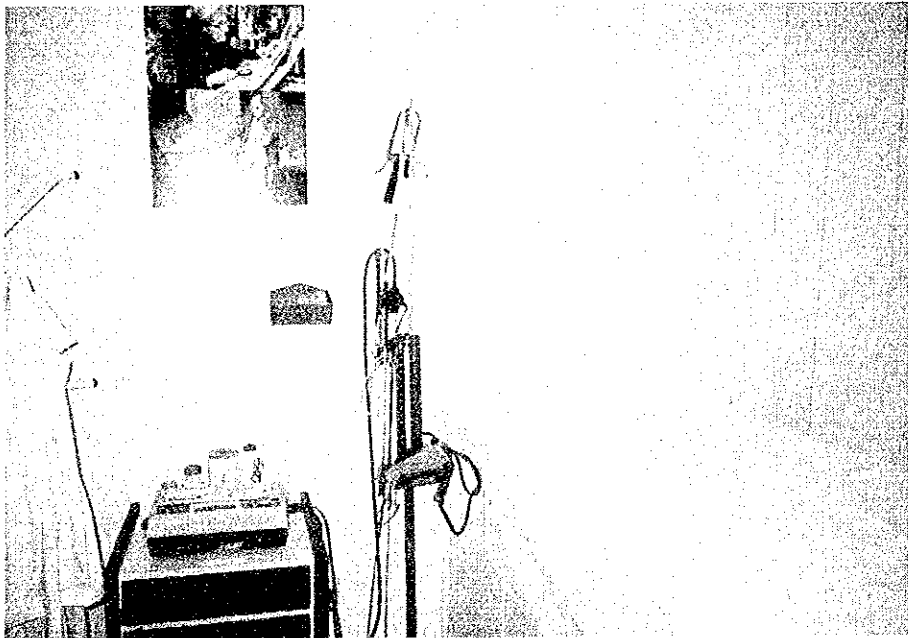
▲PUCRS 老人病学研究所の教室



▲実験・検査機材



▲入院設備



▲臨床検査設備



▲ミニッツ署名前の最終打合せ



▲ミニッツ署名後、握手する沼田岡長とNoberto Francisco Rouch学長

Lokation of
Pontificia Universidade Catolica do Rio Grande do Sul (PUCRS)

Site Locatin ; Av. Ipiranga 6690. 3ª andar, Porto Alegre -RS-, Brasil

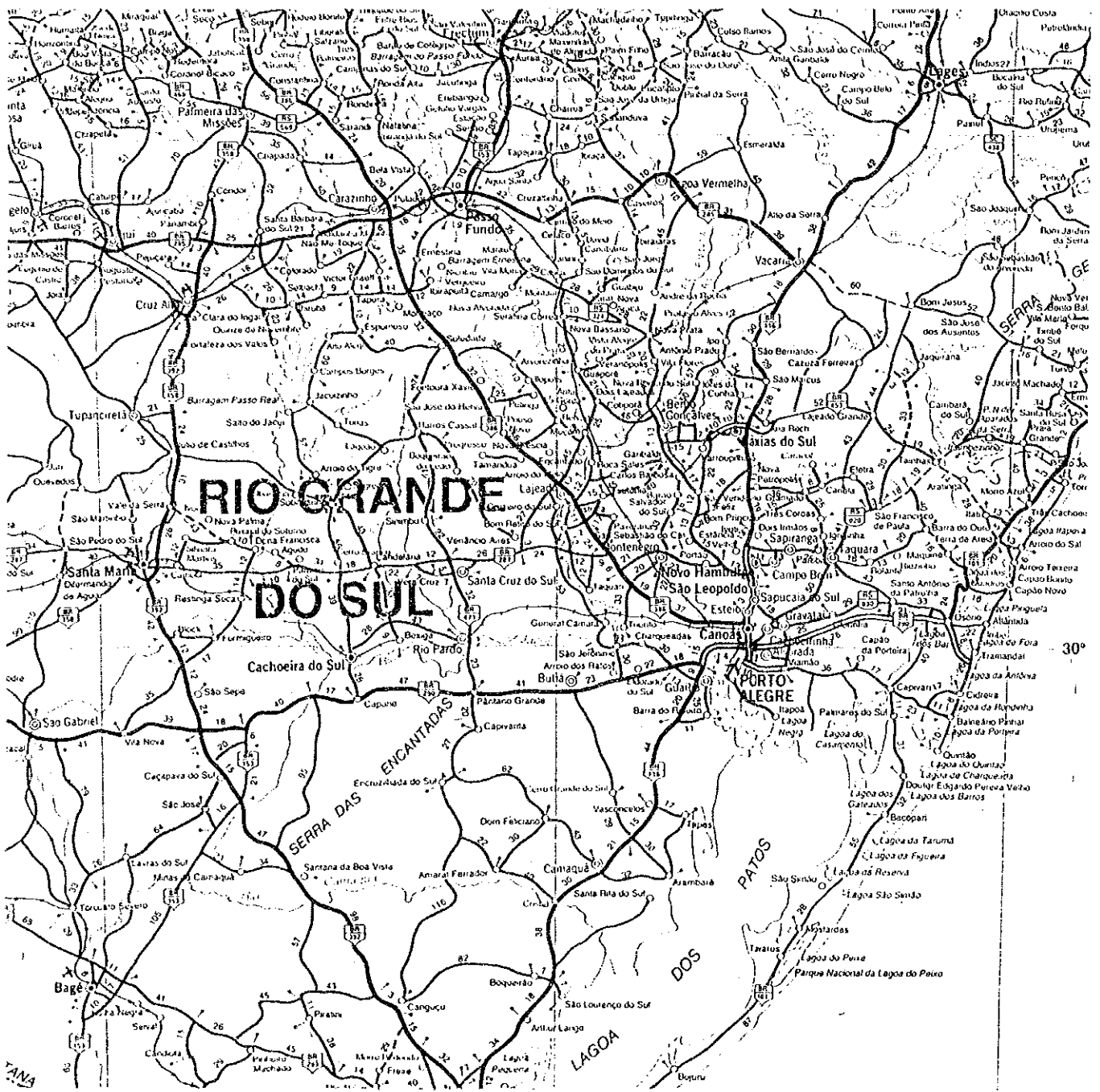
Site Area ; 209,027m²

Telephone ; (0512)39-1511 (Campus Central)
; (0512)36-8613 (Instituto de Geriatria)

Fax ; (0512)39-1564 (Campus Central)
For international Call ; 55 (Country Code),
; 51 (Area Code)

; Cx. Postal, 1429

Letter Code ; 90610-Porto Alegre - RS - Brasil



要 約

平成3年度(1991年)、ブラジル国政府は、老人病学分野の第三国研修の実施を当該年度の第三国研修の要望における優先順位第一位として、わが国に対し要請越した。

これを受けて、国際協力事業団は、同年8月30日から9月13日までブラジル国に事前調査団を派遣し、伯国側の要請背景・内容及び伯国側およびPUCRSの研修実施体制の確認を行うとともに、第三国集団研修の実施基本方針の策定を行った。

伯国側関係機関(PUCRS)と事前調査団の協議結果はミニッツに取り纏められ、9月8日に沼田団長とPUCRSのラウチ総長、森口老人病学研究所長との間で署名交換された。

序	文
写	真
地	図
要	約

1. 事前調査団の派遣
 1. 1 派遣の経緯と目的
 1. 2 調査団の構成
 1. 3 調査日程
 1. 4 主要面談者

2. 要請の背景
 2. 1 周辺国の研修ニーズ
 2. 2 実施国の当該分野の現状

3. 要請内容
 3. 1 コース名
 3. 2 目的
 3. 3 到達目標
 3. 4 時期・期間
 3. 5 カリキュラム
 3. 6 割当国
 3. 7 定員
 3. 8 応募資格

4. 第三国研修実施体制
 4. 1 実施機関の組織および事業概要
 4. 2 実施機関の関連組織およびその支援体制
 4. 3 実施機関の研修指導能力
 4. 4 実施機関の研修運営管理能力
 4. 5 実施機関の施設・建物・機材等
 4. 6 第三国研修の実行予算

5. 日本のほかの経済協力との関係

6. 日本側の協力

- 6. 1 協力の目的と必要性
- 6. 2 経費分担
- 6. 3 専門家派遣
- 6. 4 カウンターパート受入れ

7. 団長所感

附属資料

調査ミニッツ

1. 事前調査団の派遣

1. 1 派遣の経緯と目的

(1) 要請の背景

リオ・グランデ・ド・スル・カトリック大学附属老人医学研究所は、1973年からの日本政府によるプロジェクト・タイプ技術協力によって、ラテン・アメリカ諸国における最初の、そして唯一の老人医学を専門に扱った研究所として発展してきた。その間、3人の医師が日本に留学し、老人医学の専門医について学んだのはじめ、日本政府は同研究所に対し、機材の提供および機材設置のための技師を含む日本人専門家の派遣、ブラジル人医師の訓練のための施設の用意などの協力を行ってきた。

老人医学研究所は、研究成果を老人医療および介護サービス分野に反映させ、早期の老衰を予防し、また老衰によって生じる様々な病気の予防・治療に役立たせてきており、現在でも老人医学研究所の診療所で一月当たり約200人、大学と提携している施設で約400人の患者が治療を受けている。

また、同研究所は、1980年から専門医養成大学院コースを開設し、老人医学に関するグローバルな展望を講義することにより、より良い・斬新的な老人介護のコンセプトを学ばせ、老化防止の分野でより高度な知識をもった老人医学の専門家を養成していくことを目的として行ってきた。同研究所は、老人病学に関する専門教育の母体として、ラテンアメリカ諸国11か国から266名の専門医を養成してきた実績があり、本コースに対する有資格者の参加希望は依然高い。

ラテンアメリカ諸国において、過去20年来、成人病が20才以上の死亡原因の上位を占めており、老人病学に関する専門知識を備えた人材の育成は急務となっており、人材育成の実績があり、施設も整備されている同研究所の技術を周辺国に移転すべく、ブラジル政府は、平成3年度第三国研修優先順位第一位として、わが国に要請越した。(外務公信 平成2年12月19日付け第887号)

- (2) かかる要請に基づき、我が方は、ブラジル国側要請の詳細を把握するとともに先方の第三国研修実施体制を確認し、右に対する我が方の協力方針を策定すべく事前調査団をブラジル国へ派遣することとなった。

1. 2 調査団の構成

担 当	氏 名	国 内 所 属 先
団 長 ・ 総 括	沼 田 道 正	国際協力事業団 研修事業部 研修第二課 課長代理
技 術 指 導 (高 齢 医 学)	桑 葎 哉	杏林大学 医学部 高齢医学教授
研 修 計 画	井 之 上 由 美 代	国際協力事業団 研修事業部 研修第二課 職員

1. 3 調査日程

日数	月/日(曜日)	宿泊地	調査・協議内容
1	8月30日(月)	往路	成田発→ニューヨーク着
2	31日(火)	ニューヨーク	ニューヨーク発→ブラジリア着
3	9月1日(水)	ブラジリア	JICA事務所へ表敬・打合せ 在ブラジル日本大使館表敬 ブラジル協力事業団(ABC)表敬
4	2日(木)	ポルト・アレグレ	ブラジリア発→ポルト・アレグレ着
5	3日(金)	"	リオ・グランデ・ド・スル大学表敬 同大学附属研究所及び関連施設視察
6	4日(土)	"	資料整理
7	5日(日)	"	"
8	6日(月)	"	同大学にて関係者と協議
9	7日(火)	"	" ミニッツ作成
10	8日(水)	"	ミニッツ署名 在ポルト・アレグレ日本総領事館報告
11	9日(木)	ブラジリア	ブラジル協力事業団(ABC)報告 桑団員帰国
12	10日(金)	"	JICA事務所および在ブラジル 日本大使館報告
13	11日(土)	ワシントン	ブラジリア発→ワシントン着
14	12日(日)	帰路	ワシントン発
15	13日(月)		→成田着帰国

1. 4 主要面談者

(1) 在ブラジル日本大使館

渡辺 俊夫 公使
梶原 康之 一等書記官

(2) 在ポルトアレグレ日本総領事館

大川 忠治 総領事
沼田 行雄 領事

(3) ブラジル協力事業団 (ABC)

Mr. Nelson de Oliveira Coordinator
Mr. Pedro Henrique Holanda Meireles

(4) リオ・グランデ・ド・スル大学 (PUCRS)

Prof. Ir. Norberto Francisco Rauch Reitor da PUCRS
Prof. Ir. Avelino Madalozzo Vice-Reitor da PUCRS
Prof. Yukio Moriguchi Director do Instituto de Geriatria da PUCRS
Prof. Ir. Liberato Assessor da Reitoria da PUCRS
Prof. Carlos Alberto Carvalho Coordenador da Assessoria de Comunicaç ao Social da PUCRS
Prof. Eurico Saldanha de Lemos Chefe de Gabinete da Reitoria da PUCRS
Prof. Mario Hamilton Vilela Assessor da Pro-Reitoria de Pesquisa e Pos-Graduaç ao da PUCRS

(5) ブラジル事務所

鎗木 功 ブラジル事務所所長
小松 電玄 ブラジル事務所次長
須藤 勝義 ブラジル事務所職員

2. 要請の背景

2. 1 周辺国のニーズ

(1) 成人病患者の増加

ラテンアメリカ諸国における20才以上の成人の死亡原因の上位は、次のとおりとなっている。

第一位 虚血性心臓疾患

第二位 癌

第三位 脳血管疾患

以前は、他の発展途上国と同様感染症による死亡率が高く、特に幼児の場合についてその傾向が顕著であったため、この対策について各国が注力し他の先進諸国からの協力も受けた結果改善の方向をたどっているが、逆に成人の死亡原因である研究については、十分に研究がなされておらずその対策についてもまったくのつかずの状態であるといっても過言ではないという状況にある。

上記のとおり、第一位と第三位については循環器疾患であり、これはラテンアメリカ諸国特有の肉中心の動物性脂肪の多い食生活が起因し、コレステロールの蓄積と高血圧が生じさせる結果と考えられるが、これは特に気候的に暖かい地方になればなるほどこの傾向が強い。(別表1のとおり)。

つまり、気候的に暖かく過ごしやすい地方であれば、平均寿命も高く老人が全人口に占める割合も大きいためこうした成人病問題は深刻にならざるを得ないのである。

(2) 経済的理由によるニーズ

成人病専門の研究機関および専門医養成機関はラテンアメリカ諸国では、ブラジルのリオ・グランデ・ド・スル大学が唯一の機関であるため、周辺国から同大学へ180人弱の参加希望が今までにあったが、交通費や滞在費等の経済的事由から不可能となるケースも珍しくなく成人病専門医の養成はたち遅れている。

しかしながら、ラテンアメリカ諸国の成人病問題解決は急務であり、そのための医療援助は願ってもないことであるが、いきなり例えば病院などのハードウェアを提供してもそれを活かせる人材が不足していたり、あるいはその恩恵にあずかる国民に限られた層でしかないなどの問題が生じ得る。したがって、成人病専門医養成の壁となっている経済的理由をクリアする本第三国研修に対する周辺諸国のニーズは極めて高いといえる。

2. 2 実施国の当該分野の状況

(1) ブラジルにおける成人病の状況

ブラジルは、北はアマゾンに、南はアルゼンチンのパンパにつながる広い平野に代表され、人口1億2千万人、国土は日本の約23倍の豊かな自然に恵まれた国である。国民の食習慣は住む地域により異なるが共通して肉（主に牛肉）が日常的な食物となっている。味付け的にも塩味が濃く油気が多いもので、しかも量的に多く摂取している。

1979年にリオ・グランデ・ド・スル大学が広島女子医大との共同研究で、ブラジル在住日系人の食生活を日本在住日系人の食生活とを比較した結果、肉を1.8倍、砂糖を3倍、塩を1.2倍多く摂取し、一方野菜と魚は0.7倍しか摂取していないことが判明した。

当時、同国の死亡率統計（別表2）では、高血圧・動脈硬化をはじめとする循環器疾患が第一位であり、これは同国のカロリー摂取量の多い生活によるところが大きいと分析したりオ・グランデ・ド・スル大学老人病学研究所の森口教授は、食事指導を主体とした循環器疾患予防に尽力し、その効果は徐々に現れつつあった。しかし、近年ブラジルから日本へ出稼ぎが始まったことで、再びブラジル人の食生活が崩れはじめ、特に主婦が出稼ぎにいった家庭では調理しやすい肉が中心となり、塩分が多く、野菜や魚の摂取量が少ない食生活に戻る傾向があり、循環器疾患にかかる人口は増えつつある。

(2) リオ・グランデ・ド・スル大学老人病学研究所の果たしてきた役割

ブラジルにおける平均寿命の伸びは（別表3）、高齢者の医療・介護対策が急務となっているが、リオ・グランデ・ド・スル大学老人病学研究所が唯一、高齢者の介護サービスセンターとしての役割を果たしており、患者はこの診療室に通院して、または入院して老人医学専門の医師または準医療従事者による治療を受ける。同研究所では、個人の患者も、また福祉による患者の受け入れも行っており、1979年以来、4,876人の高齢者が入院しているが、一月当たり約200人程度、大学と提携している施設で約400人程度が限度であり、大量の高齢者人口を抱えるブラジル国のニーズを満たしているとはいえ、現在でも同研究所の治療を待ち続けている人は多い。これは、同研究所の場所的なキャパシティの問題だけではなく、治療を担当する専門医師が不足しているのも大きな要因である。

同研究所はもう一つの役割として、大学院レベルの専門教育課程を開講し、老人医学のスペシャリストを養成していくことがある。今まで述べてきたように老人病問題の解決は急務であり、唯一の専門教育課程である同コースに対するニーズは、ブラジルはもちろんラテンアメリカ諸国において非常に高いが、毎年度の定員数が20名であるため、十分に対応できていない。（別表4のとおり）

(3) 本第三国研修の必要性

このように、老人病専門医の養成の必要性が、ブラジルもふくめたラテンアメリカ諸国において極めて高くなってきていることから、我が国のプロジェクト方式協力により設立された、ラテンアメリカ諸国の唯一の老人病研究専門機関である、リオ・グランデ・ド・スル大学老人病学研究所が、ブラジル、ラテン・アメリカ諸国から大いに注目・期待されており、まさしくこれらの期待にこたえうるものである。

3. 要請内容（第三国集団研修基本計画）

3. 1 コース名称

ブラジル側から提出された要望調査表によれば「老人病学専門課程大学院研修コース」（Postgraduate Geriatrics Course Specialization Level）とあり名称が長いため、我が方で「心臓病疾患（Adult Cardiopathy）として平成5年3月にコンタクトミッションを派遣したがPUCRS側と協議した結果、本コースについては、成人病の治療をはじめ予防、リハビリ等を含めた成人病疾患の減少のための全般的な知識、技術を修得させるものであり、こうした成人病疾患減少のための研究を総じて「老人病学」（Geriatrics）というため、コース名称も「老人病」とすることで合意した。

3. 2 コースの目的

3. 1記載のとおり、成人病（心臓疾患、脳血管疾患、悪性新生物）の治療だけでなく、その危険因子及び予防因子の研究向上により右疾患の治療率の向上、発生率の低下のための知識、技術の修得にある。これにより本コースに参加した研修員が帰国後、それぞれの国の実情に応じた施策を打ち出していくことにより、ラテンアメリカ諸国全体に現存する成人病疾患による死亡率の減少に貢献するものである。

3. 3 到達目標

- (1) 老人病学に関する専門知識を包括的および組織的に向上させる。
- (2) 老人病の患者治療に関する医学的技術を向上させる。
- (3) 老人病の予防に関する全般的知識を深める。
- (4) 老人病及び予防医学の分野におけるスペシャリストを養成する。
- (5) ブラジル連邦共和国及びラテン・アメリカ諸国における独特の老人病について研究する。
- (6) ラテン・アメリカ諸国における老人病とその病因の現状と今後の方向について理解する。
- (7) 老人医学において大学における講師資格(CERTIFICADO DE POST-GRADUA AO A NIVEL DE ESPECIALIZAO EM GERIATRIA) [別添 |]を取得する。

なお、上記(7)については、本コースの最終到達目標であり、かつ老人病学を広くラテン・アメリカ諸国に普及する上で有効な役割を果たす重要な目標であるということで、PUCRS側の要望により当初案に新たに付加したものである。

3. 4 研修時期・協力期間

リオ・グランデ・ド・スル大学老人病学研究所で通常開講されている専門課程の期間は全カリキュラムを2年度に分け、毎年7月1日～7月31日の間の全期

間2か月間で行っているものについて、我が方で、研修内容を集約化し1か月間として毎年行っていくことができないかPUCRS側と協議したが、本コースの到達目標である大学での講師資格を取得するには360時間以上の同研究所の講義を受けることが必須条件であり、これには最低2か月間の研修期間が必要であることが明らかとなったため、毎年7月1日～8月31日の実施ということで合意した。なお、7月開始とした理由は同研究所の講師を招へいする都合上、通常の専門教育課程と期間を重ねた方がよいためである。

協力期間は94年～99年の5年間となる。

3.5 カリキュラム

3.4に記述のとおり、本コースは同研究所で既に実施されている老人病専門医養成のための専門教育課程を広く第三国の研修員に受講させるものであるため、カリキュラムは通常の専門教育課程のものと内容的には同じである。

分野においては、老人生物学、予防老人病学、社会老人学、臨床老人病学の四分野に大別され、論理、実習、教育方法論の研修を行うものである。なお、この専門教育課程には大学の教職課程に相当するものが含まれているため、本コースを修了すれば自動的にラテンアメリカ諸国のどこの大学でも通用する講師資格が取得できるのが、老人病研究内容を広く普及するうえで大きなメリットとなっている。

3.6 割当国

当初案では、10か国の割当国(20人)を要望していたが、PUCRS側の強い要望もあり、ラテンアメリカ諸国から広く参加者を求めることが研修の効果を確保するうえでも必要との考えから、新たに2か国(メキシコ、コスタリカ)を加えることとした。なお、アフリカ諸国を対象することについてもPUCRS側と協議したが、本コースの性質上、大学院レベルのかなり専門的な内容をとりあげるためあえてラテンアメリカ諸国のみを対象とすることで合意した。

3.7 定員

実施機関側は、割当国から20名、ブラジルから20名の計40名の定員を考慮しており、その理由として実施国の研修員に関する研修費用は第三国研修の経費負担外と考えており、従来から老人医学専門課程が受入れている人数(20人)は実施機関側の予算で受入れたいということであった。

しかし事前調査後も協議を重ね、実施国研修員の場合も、研修カリキュラムで計画されている研修旅行に参加した場合は、旅費、日当、宿泊費が支給されることを説明し、実施国側の参加者は他の第三国研修並みの5名以下とし計45名とすることでブラジル側と合意した。

3. 8 応募資格

本コースの応募資格は次のとおり。

- (1) R/D10-1に規定するとおり、それぞれの国の政府から候補者として指名されていること。
- (2) 内科について基本的な知識を有していること。
- (3) 現在も、また将来的にも老人病疾患に対する予防、治療、リハビリに従事することが期待されていること。
- (4) 医学分野において2年以上の実務経験を有していること。
- (5) 年齢は60歳以下であり、かつスペイン語かポルトガル語に堪能であること。
- (6) 健康であり、肉体的にも精神的にも本コースを修了するに耐えうる能力を有していること。

なお、当初の我が方の案では、更に「老人病に関連する分野において大学卒業程度、またはそれに準ずる知識を有していること」も資格要件に加えていたが、老人病学についてそのような知識を得るには、ラテン・アメリカ諸国においてPUCRS以外になく、この資格要件そのものが本コースの到達目標であるというPUCRS側の意見を踏まえ、資格要件から除外した。

4. 第三国研修実施体制

4. 1 実施期間の組織及び事業概要

- (1) リオ・グランデ・ド・スル州ポンチフィシア・カトリック大学(PUCRS)
老人病学研究所の沿革

本研究所創設の歴史は、1971年、PUCRSがラテンアメリカ諸国で最初の老人医学の講義を行う為に森口幸雄教授を客員教授として招いた時に始まる。同教授は、ブラジルに帰化した日本人で、1948年、慶應大学で博士号を取得後、1968年から清泉女子大学にて老人栄養学の教授を勤めた後、現地へ移住した。

更にPUCRSは、老人医学に関しての技術協力をブラジル政府を通じて正式に要請し、1973年11月27日に締結されたR/Dにより日本のプロジェクト方式技術協力が開始された。この技術協力協定の基本としてリオ・グランデ・ド・スル州ポンチフィシア・カトリック大学内における老人病学研究所の設立があり、日本政府は同国において、ブラジル人医師を訓練する為の施設の用意、老人医学研究所開設のために必要な資材の提供、そして最新式の機材を設置するために技師を含む専門家の派遣等をおこなってきており、1975年12月1日に開講の運びとなった。

老人病学研究所は、技術的・科学的そして文化的な正確を持った研究所で、主

につぎの3つを目的としている。

(ア) 研究機関としての目的

同研究所で行われている研究は、国際レベルのものとなっている。その研究内容の例を挙げる。

- ・高齢者が必要とするビタミン類について
- ・健康で長生きのための要因は何か
- ・高齢者の体内にある脂質について
- ・高齢者の体内にある脂蛋白質について
- ・肥満と脂質の関係について
- ・脂質の変成について
- ・エタノールと血しょう脂蛋白質の関係について
- ・ブラジル人の食生活に関する生態調査
- ・環境が老人病に与える影響
- ・海の魚とオメガ3の酸化脂肪
- ・オリーブ油と脂質の関係
- ・高齢者の心電図について
- ・酸化脂肪と鳥について
- ・塩水魚・貝類・EPA・IHAとアテローム性動脈硬化症
- ・チーズと酸化脂肪
- ・EPA・DHA・脂蛋白質と血液の凝固について

(イ) 国民に医療および介護サービスを提供する目的

同研究所においては、上記(1)で行われた様々な研究の成果を医療の分野に反映させ、早期の老衰を予防し、また老衰によって生じる様々な病気の予防、治療を行うことである。患者はこの診療室に通院、または入院して老人医学専門の医師または準医療従事者から治療を受ける。1979年以来、同研究所には4,876人の高齢者が入院しており、患者は直接的・集中的な介護のもとで治療を受けることができる。現在、同研究所の診療所で一月当たり約200人、大学と提携している施設で約400人の患者が治療を受けている。

同研究所には、ベッドが16床あるが、これらのベッドはコンピュータ制御がされており、中央モニターに接続されてすべてのベッドと拡声器または呼び鈴で直接話ができるようになっているため、より重症の患者の完全介護可能である。同研究所の診療所で診察を受けている患者はすべて定期的に眼底検査・心電図・肺活量・脂肪量などの検査が行われ他の病気の誘発を予防することができる。

こうした診療施設を同研究所が併せ持っていることは、本コース参加の研修員に対し老人病対策の模範的実例として、自国で研修成果を発揮する場合に大いに参考になるものと考えられる。

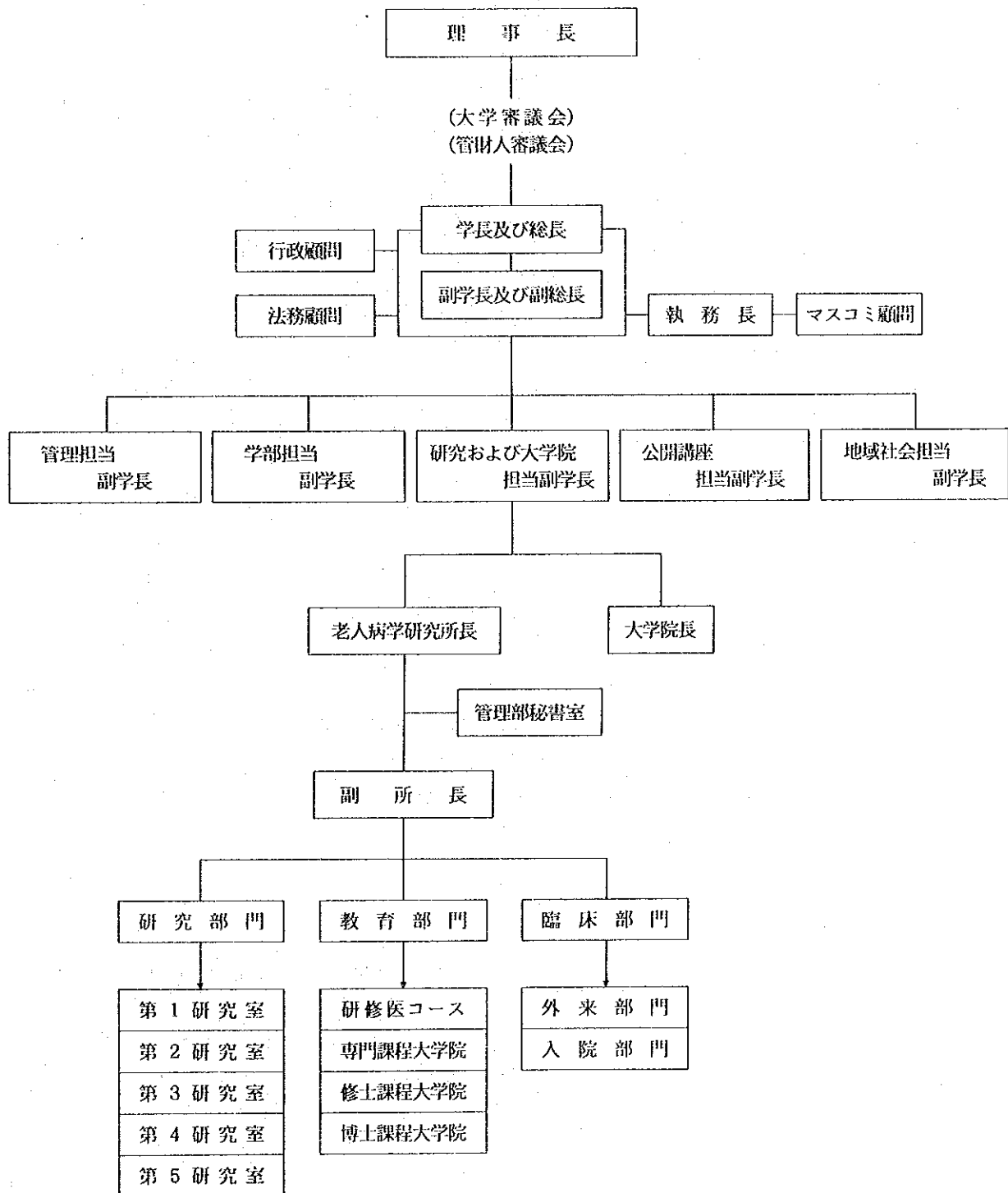
(ウ) 大学院レベルの老人医学の専門教育を行い、老人医学の専門医を養成する

目的

上記目的については、本コースの研修実施体制の説明と重複するため、後記4.3以降に詳細に述べる。

(2) リオ・グランデ・ド・スル州ポンチフィシア・カトリック大学 (PUCRS)

組織図



(3) 老人病学研究所講師リスト

第 表 老人病学研究所講師リスト

Instituto de Geriatria Staff List

(Pontificia Universidade Catolica do Rio Grande do Sul)

1993年3月現在

No.	氏 名	役 職	専 門	出身校	学位	年
1	森 口 幸 雄	所長、教授	予 防	PUCRS	博士	67
2	森口 エミリオ 秀幸	大学院教授	動脈硬化	URGS	博士	35
3	アントニオ カルロス ソーザ	助 教 授	骨	PUCRS	博士	41
4	エバルド ナシメント	助 教 授	肺	PUCRS		41
5	エミリオ ジュケル	助 教 授	老 化	URGS	博士予定	33
6	ニュートン テーラ	講 師	脂 質	PUCRS		43
7	パウロ エクマン	講 師	心 臓	PUCRS		34
8	アンジェロ ボス	助 手	統 計	PUCRS	博士予定	33

4. 2 実施機関に対する他の先進国からの支援体制

老人医学研究所は、リオ・グランデ・ド・スル州ポンチフィシア・カトリック大学(PUCRS)の調査部部长兼大学院部長を通して学長直属となる特別な機関となっており、本コース開催については大学の全面的支援が期待できるため、その支援体制は強力なものである。

4. 3 実施機関の研修指導能力

4. 1 (1) ② (ウ) に記した様に、老人医学研究所の設立には大学院レベルの老人医学の専門教育を行い、老人医学の専門医を養成する目的がある。本研究所で行われる老人医学専門課程は、老人医学に関するグローバルな展望を講義すること、即ち専門課程を通じてより良い・斬新的な老人介護のコンセプトを学ぶこと、そして老化防止の分野でより高度な知識を得るということが到達目標となっている。その講義内容は老人生物学、老化の予防、老人社会、老人医療などの内容が中心であり、臨床的技術よりも老化の理解、その予防に関する知識の普及が中心となっている。

なお、講師陣は老人医学専門の教授や他の分野のスペシャリスト、そしてブラジル内外の大学からの招かれた客員教授たちから構成されており、本コースの講師についても、すべて現職の教員（教授、助教授、講師）の対応となる。

また同研究所は、PUCRSの医学部に対してもその教育機関としての機能を提供しており、学部・修士課程・博士号課程の各コースで講義を行っている。したがって、同研究所の老人病学に関する研修指導能力については実績を有しているといえよう。

4. 4 実施機関の研修運営能力

4. 3に記述した老人医学専門課程については、1980年より始動し、毎年行われ、既に266人の医師が卒業している。これらの卒業生の多くは、ボリビア、コロンビア、エクアドル、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、ウルグアイ、ベネズエラ、アルゼンチン、チリ等のラテンアメリカ諸国からきた医師であり、同研究所の研修運営能力はこうした長い実績から確かなものであるといえよう。

4. 5 実施機関の施設・建物・機材等

本件第三国研修については、既に同研究所で行われている老人医学専門課程で使用される施設・建物・機材をそのまま使用することとなる。

したがって、同研究所には講義室（約50人程度収容可能）および実験室が完備されており、また図書館には老人医学・老人病学の専門書が200冊以上を所蔵し、研修員自身が自由に閲覧出来る状態になっている。

研修機材についても、老人病学に関する各種分析技術を身につけるために必要なキザは揃っているが、これらの機器類が日常的な教育、研究活動に高頻度で使用されているので、向こう5ケ年にわたる研修期間中、一部老朽化した機器の更新、スペアパーツの供与が必要不可欠と思われる。

また、滞在研修のための宿泊施設は、同研究所に有しないため近隣のホテルを利用することとなるが、厚生施設として食堂、売店、診療施設などがある。

利用可能な施設、主な機材は次のとおり。

(1) 施設

講義室：老人医学研究所専用講義室（約50名程度収容、視聴覚機材も揃っている。）

実験室：各種機材を設置し、実験等が行える様多数の実験室を備えている。

臨床設備：入院16床。

図書館：研修員閲覧可能。

食堂・売店：研修員利用可能。

宿舎：近隣のホテルであるハルモニア・パークホテルを利用。

5. 日本の他の経済協力との関係

5.1 技術協力

1973年1月から4年4ヶ月に亘り、老人病学研究所施設に関しプロジェクト方式技術協力を行った後、長期または短期専門家を派遣し同研究所の人材養成に貢献してきた実績がある。

なお、具体協力実績については次のとおり。

専門家派遣、研修員受入れ及び機材供与

年 度	専門家 人数		研修員 人数		機材供与 経費
	継続	新規	継続	新規	(円)
	昭和48				
49			2	2	63,365,924
50		2	2	4	51,821,585
51	2	3	2	1	10,138,000
52	1		1		

5.2 無償協力

JICAとしての無償資金協力の実績はなし。

5.3 その他

調査団派遣実績としては次のとおり。

S.47. 1.21.~S.47. 2.21. 基礎調査
 S.48.11.24.~S.48.12.14. 実施調査
 S.50.11.25.~S.50.12.9. 計画打合せ
 S.51. 2.21.~S.51. 3.7. 評価調査

6. 日本側の協力

6. 1 協力の目的と必要性

本件第三国研修の目的は、これまで日本がPUCRSに対し実施してきた各種技術協力実績を踏まえ、周辺国に対し成人病の予防、治療、リハビリに関する専門技術を研修させることにある。

また、こうした専門技術に関する周辺国のニーズは、これまでPUCRS老人病学研究所が行った老人病専門課程に対する人気の高さからもすでに実証済みであり、本第三国研修を実施することは、極めて有意義なものといえよう。

6. 2 経費負担

経費の見積もりについては、PUCRS側の意向も踏まえ、R/D締結までにJICAブラジル事務所とPUCRS側が協議し、結果として前記4. 6に述べている要望を全て受入れることで合意した。

6. 3 専門家派遣

(1) 初回については、今回事前調査団員である秦団員にて対応する。

なお、秦団員のみでカバーできない場合はもう1名派遣することでPUCRSと合意した。

(2) 2回目以降については、必要に応じ専門家1～2名での対応を考えているが、本件については秦団員とPUCRS側の森口教授と協議のうえすすめていくこととする。

6. 4 カウンター・パート受入れ

実施機関側より年間1名程度という要望が出され、受入れ先については秦団員の所属先である杏林大学の協力を得たいというということであったが、本件については予算上の都合もあるため、別途協議していくこととする。

7. 団長所感

本件第三国研修は、ラテン・アメリカ諸国での成人病疾患の急増に鑑み、専門医の要請が急務となったことから、従来より小規模ながら老人病専門医の養成を続けてきたリオ・グランデ・ド・スル州カトリック大学付属老人病研究所の活動を支援する為、ブラジル政府より平成3年度優先順位第一位にて要請された経緯がある。

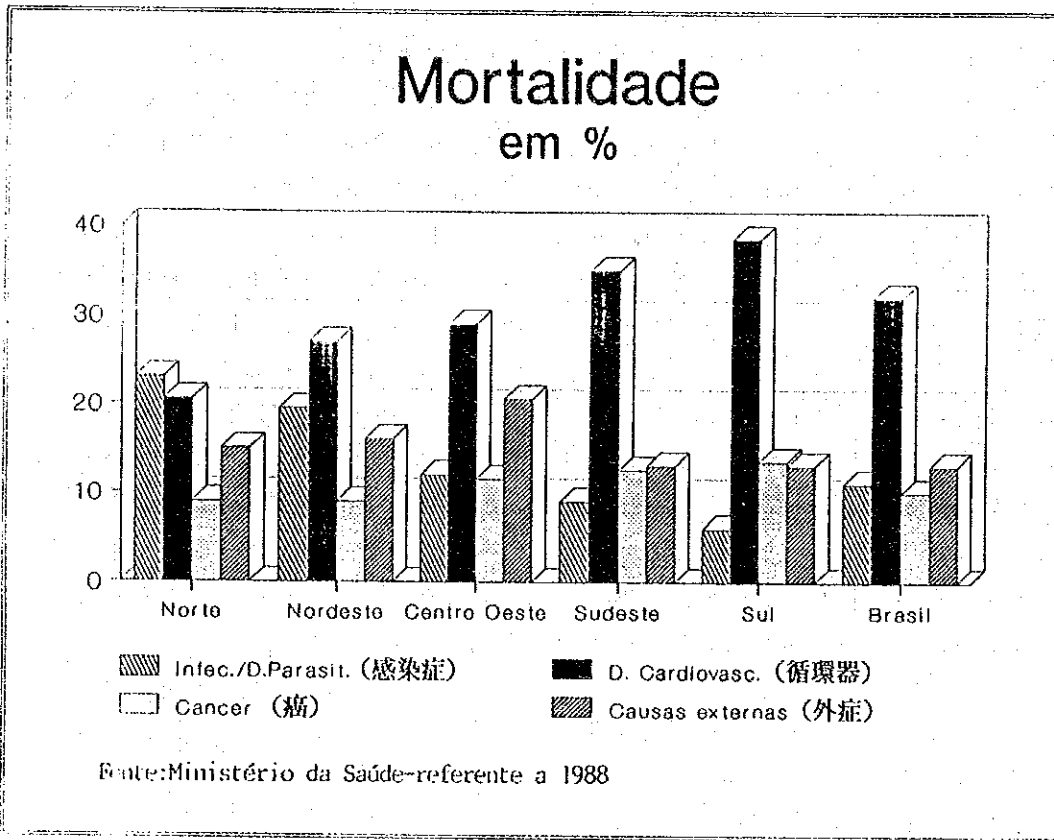
この要請に応え、国際協力事業団は平成5年3月にコンタクト・ミッションを派遣し実施に係る基本事項を相互に確認した後、平成5年9月に今回の事前調査団を派遣し、研修対象、研修目的、研修内容、実施体制、予算措置等を調査し、同大学関係者と協議の上、R/D案を作成しかつ合意事項をミニッツに取り纏めたものである。

本件については、これまで老人病学という言葉のイメージから、不要不急の事業ではないかとの疑問が呈されたが、ラテン・アメリカ地域では、過去20年、平均寿命の延長と共に成人病疾患が急増し、20才以上の死亡原因の上位を占めるようになった為、栄養、予防、治療、リハビリテーション等一貫して対処する総合的な医療対策が急務となったのである。しかしながら、事態が重大な局面を迎えているにもかかわらず、この分野における専門医が全く不足しているのが実状である。

ブラジルのリオ・グランデ・ド・スル州カトリック大学付属老人病研究所は、ラテン・アメリカ地域における唯一の専門的な研究・治療・高等教育機関であり、同研究所は、1980年以来、専門医養成大学院コースを開設し、専門医の育成に努めて来た実績がある。二度にわたる現地調査においても同研究所の施設及び機材、実施体制、講師陣の人材、研究実績等が十分優れていることを確認することが出来た。加えてカトリック大学からの全学的な支援についても学長及びそのスタッフから幾度となく確約の回答を得た。

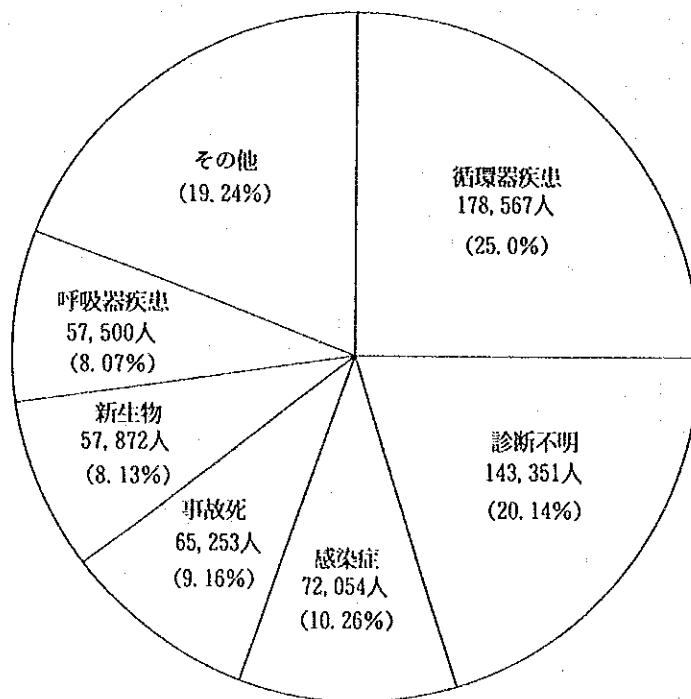
従って、本件第三国研修が、ラテン・アメリカ地域において急増する成人病疾患に対処する専門医の育成に極めて有効であり、また実施上の問題はないと思料されるのである。

(別表1)



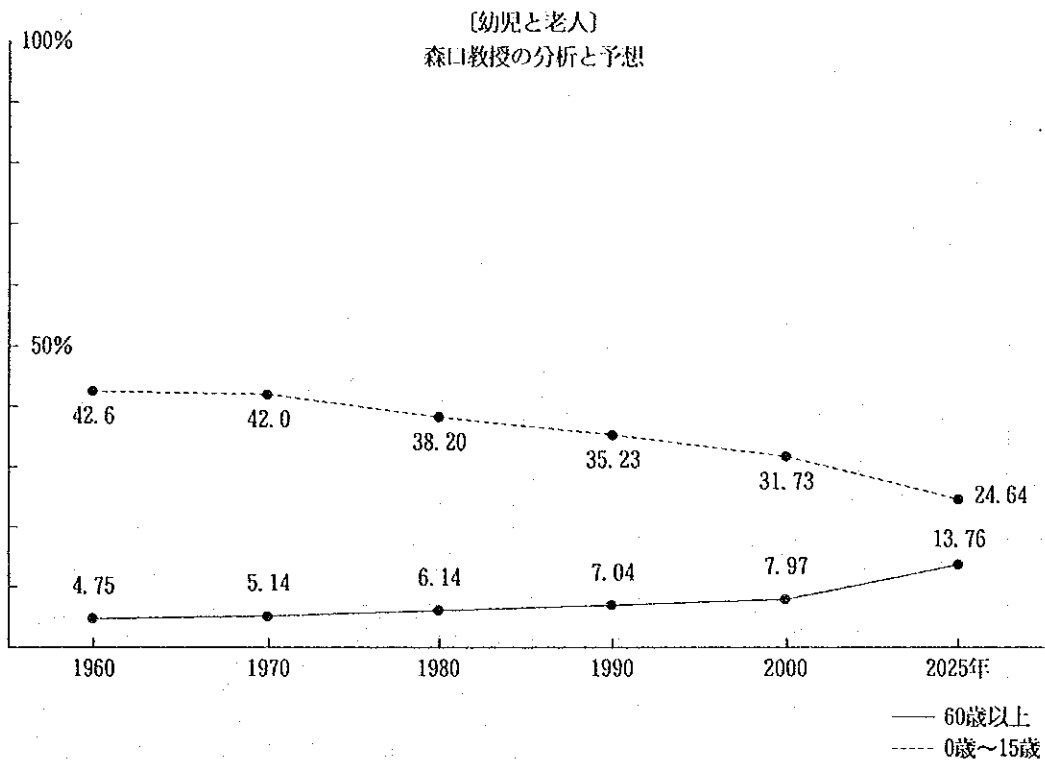
(別表2)

ブラジルの死亡率統計 (1979)
—主要死因について—



ブラジルの年齢別人口比較 (%)

(別表3)



老人病学研究所老人病学専門課程応募状況

(別表4)

(単位:人)

	希 望 者		合 格 者		修 了 者
	ブラジル	外 国	ブラジル	外 国	
1981	101	12	38	2	33
1982	103	35	37	3	36
1983	58	0	20	0	19
1984	46	20	18	2	15
1985	52	0	20	0	15
1986	78	32	39	6	44
1987	84	10	20	5	24
1988	93	23	20	5	18
1989	112	15	22	3	21
1990	119	10	24	1	24
1991	177	18	22	3	17



Pontifícia Universidade Católica do Rio Grande do Sul
PRÓ-REITORIA DE PESQUISA E PÓS-GRADUAÇÃO

A _____ e de _____
filho(a) de _____
nascido(a) em _____ de 19____, em _____ é conferido o presente

CERTIFICADO DE PÓS-GRADUAÇÃO

POR TER CONCLUÍDO, DE ACORDO COM A RESOLUÇÃO DO CFE Nº 12/83, O CURSO DE ESPECIALIZAÇÃO EM _____

PORTO ALEGRE, _____ DE _____ DE _____

DIRETOR

COORDENADOR

PRÓ-REITOR

ALUNO

(別添1)

リオ・グランデ・ド・スール州カトリック大学
老年医学研究所

老年医学専門課程大学院

生徒名：

コーディネーター：森口教授

01/07/94 - 金曜日

08:00 - 09:00 - 始業式 - 森口教授
 09:00 - 11:00 - 研究所の歴史 - テーラ教授
 11:00 - 12:00 - 全般的インフォメーション - ナイル教授
 14:00 - 15:00 - 老化遺伝学 - メネゴット教授
 15:00 - 16:00 - 老化説 - マリリア教授
 16:00 - 18:00 - 老化免疫学 - パウロ サライヴァ教授

02/07/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 老人生物学 - 森口教授

04/07/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 老人生物学 - 森口教授
 14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

05/07/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 老人生物学 - 森口教授
 14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

06/07/94 - 水曜日

08:00 - 12:00 - 老人生物学 - 森口教授
 14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

07/07/94 - 木曜日

08:00 - 12:00 - 予防老年医学 - 森口教授
 14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

08/07/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 予防老年医学 - 森口教授
 14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

09/07/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

11/07/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 予防老年医学 - 森口教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

12/07/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 予防老年医学 - 森口教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

13/07/94 - 水曜日

08:00 - 12:00 - 予防老年医学 - 森口教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

14/07/94 - 木曜日

08:00 - 10:00 - 老人の高血圧 - 森口教授

10:00 - 12:00 - 老人の薬学 - 森口教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

15/07/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 老人専門医の患者に対する態度
老人患者に対する対応 - 森口教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

16/07/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

18/07/94 - 月曜日

08:00 - 10:00 - 試験 - 森口教授

10:00 - 12:00 - 老人患者の主な主訴 - テーラ教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

19/07/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 老年社会学 - ナイル・モニカ教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

20/07/94 - 水曜日

08:00 - 12:00 - 老年社会学 - ナイル・モニカ教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

21/07/94 - 木曜日

08:00 - 12:00 - 老年社会学 - ナイル・モニカ教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

22/07/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 老年社会学 - ナイル・モニカ教授

14:00 - 18:00 - 高等教育方法論 - マルビーナ教授

23/07/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

25/07/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 老人の整形外科学 - エラズモ教授

14:00 - 18:00 - 老人の神経科学 - ジェッフエルソン教授

26/07/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 老人の神経科学 - ジェッフエルソン教授

14:00 - 18:00 - " " " " " "

27/07/94 - 水曜日

08:00 - 10:00 - 老人の心不全と高血圧 - ボダネーゼ教授

10:00 - 12:00 - 老人の虚血性心疾患 - E・マネンチ教授

14:00 - 16:00 - 老人の心臓負荷試験 - P・S・フェルナンデス教授

16:00 - 18:00 - 老人の不整脈異常 - J・フェルナンデス教授

28/07/94 - 木曜日

08:00 - 10:00 - 老人の心臓弁膜症 - J・グアラグナ教授

10:00 - 12:00 - 老人の心電図 - ジェアニーゼ教授
14:00 - 16:00 - 老人の心筋ミンチグラフィ - トンド教授
16:00 - 18:00 - 老人の精神病学 - ロウルデス教授

29/07/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 老人の精神病学 - ロウルデス教授
14:00 - 18:00 - 老人のリューマチ科学 - M・フランク教授

30/07/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

01/08/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 老人のリハビリテーション - ムッセ教授
14:00 - 18:00 - 老人の癌科学 - アダルベルト教授

02/08/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 老人の血液科学 - M・セルジョ教授
14:00 - 18:00 - 老人の血液科学 - M・セルジョ教授

03/08/94 - 水曜日

08:00 - 12:00 - 老人の内視鏡 - リッテル教授
14:00 - 18:00 - 老人の肝臓、胆嚢、膵臓病 - ロデイロ教授

04/08/94 - 木曜日

08:00 - 12:00 - 老人の大腸疾患消化器出血 - フランシスコニ教授
14:00 - 16:00 - 肺器能検査 - ジュッサーラ教授
16:00 - 18:00 - 老人肺と、慢性閉鎖肺疾患 - エバルド教授

05/08/94 - 金曜日

08:00 - 10:00 - 老人の肺癌 - マルガレッチ教授
10:00 - 12:00 - 老人の肺炎と結核 - ビルジーリオ教授
14:00 - 16:00 - 老人の肺ミコーゼ病 - L・セベロ教授
16:00 - 18:00 - 老人の感染症 - ナルバーエス教授

06/08/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

08/08/94 - 月曜日

08:00 - 10:00 - 老人の胸外科学 - ピント教授
10:00 - 12:00 - 老人の腹部外科学 - コンスタント教授
14:00 - 16:00 - 老人の血管外科学 - ゴルダニー教授
16:00 - 18:00 - 老人の脳外科学 - パグリオーリ教授

09/08/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 老人の皮膚科学 - ボナット及びバルテレ教授
14:00 - 16:00 - 老人の麻酔科学 - フラービオ教授
16:00 - 18:00 - 老人の核医学 - エストレーラ教授

10/08/94 - 水曜日

08:00 - 10:00 - 老人の腎臓器機能科学 - ドミンゴス教授
10:00 - 12:00 - 老人の腎臓不全科学 - ポリ教授
14:00 - 16:00 - 老人のネフローゼ症候群 - フェルヴェンザ教授
16:00 - 18:00 - 老人の慢性腎臓不全科学 - マロナ教授

11/08/94 - 木曜日

08:00 - 10:00 - 老人の前立腺癌 - クロービス教授
10:00 - 12:00 - 老人の性不能症 - カイロリ教授
14:00 - 16:00 - 老人の尿失禁症 - ノロニャ教授
16:00 - 18:00 - 老人の前立腺肥大症 - バラッタ教授

12/08/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 老人の口門病学 - フィルマン教授
14:00 - 18:00 - 老人の心理学 - シルビア教授

13/08/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

15/08/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 老人の内分泌学 - グラジア教授

14:00 - 18:00 - 老人の放射線学 - ベッチオ教授

16/08/94 - 火曜日

08:00 - 10:00 - 経理栄養 - セーザル教授

10:00 - 12:00 - 老人の精神病学 - ペードロ教授

14:00 - 18:00 - アルツマイハ-型痴呆及び神経薬学 - マルシア教授

17/08/94 - 水曜日

08:00 - 10:00 - 老人の歯科学 - ユルゲル教授

10:00 - 12:00 - 老人の看護学 - クリスチナ教授

14:00 - 16:00 - 老人の形成外科 - アウリ教授

16:00 - 18:00 - 老人のビデオ・ラパロス・コピー - プリニオ教授

18/08/94 - 木曜日

08:00 - 12:00 - 老人の薬学 - 森口教授

14:00 - 18:00 - 老人の職脳訓練 - マルタ教授

19/08/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 老人の眼科学 - ラビンスキ教授

14:00 - 18:00 - 老人の耳鼻咽喉科 - モウサーレ教授

20/08/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

22/08/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 老人の栄養学 - バーロ・ツアルテ教授

14:00 - 18:00 - 老人の婦人科学 - ニーロ教授

23/08/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 外来実習 - テーラ、アントニオ、パウロ、森口教授

14:00 - 18:00 - 老人の入院患者実習 - エバルド教授

24/08/94 - 水曜日

08:00 - 12:00 - 外来実習

14:00 - 18:00 - 老人の入院患者実習

25/08/94 - 木曜日

08:00 - 12:00 - 外来実習
14:00 - 18:00 - 老人の入院患者実習

26/08/94 - 金曜日

08:00 - 12:00 - 外来実習
14:00 - 18:00 - 老人の入院患者実習

27/08/94 - 土曜日

08:00 - 12:00 - 自習時間

29/08/94 - 月曜日

08:00 - 12:00 - 外来実習
14:00 - 18:00 - 老人の入院患者実習

30/08/94 - 火曜日

08:00 - 12:00 - 外来実習 - リカルド教授
14:00 - 18:00 - 老人の入院患者実習

31/08/94 - 水曜日

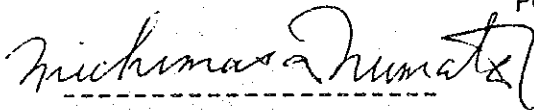
08:00 - 10:00 - 最終講義 - 森口教授
10:00 - 卒業式

附属資料（調査ミニッツ）

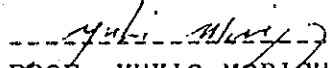
THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM
AND
THE INSTITUTO DE GERIATRIA OF
PONTIFÍCIA UNIVERSIDADE CATÓLICA DO RIO GRANDE DO SUL
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

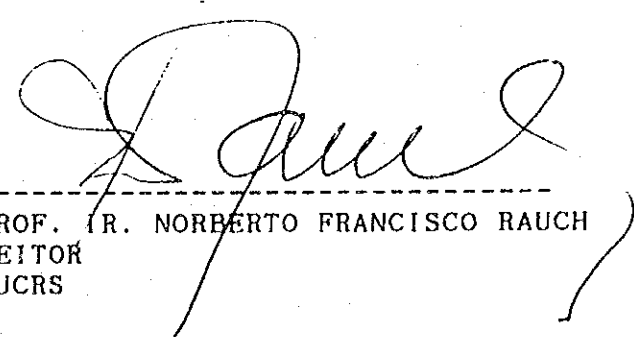
1. The Japanese preliminary survey team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Michimasa NUMATA, visited the Federative Republic of Brazil from August 31st, 1993 to September 13th, 1993, in order to discuss with the staff of the Instituto de Geriatria of Pontificia Universidade Católica do Rio Grande do Sul (hereinafter referred to as "PUCRS"), headed by Mr. Yukio MORIGUCHI, a training course for participants from Latin American countries in the field of geriatrics and preventive medicine, to be implemented in the Federative Republic of Brazil under JICA's Third Country Training Programme.
2. The Team has conducted surveys, held a series of meetings and exchanged opinions with the authorities concerned of the Federative Republic of Brazil regarding the course.
3. Both sides came to share the view that the course will contribute to the development of geriatrics and preventive medicine in Latin American countries.
4. Both sides drafted the Record of Discussions attached as APPENDIX I, and agreed to recommend to their respective Governments that further studies should be made for elaborating it in order to ensure the successful implementation of the course.
5. A list of attendants at the meetings is attached as APPENDIX II.

PORTO ALEGRE-RS, September 8th, 1993.



MR. MICHIMASA NUMATA
HEAD OF THE JAPANESE
PRELIMINARY SURVEY TEAM,
JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY (JICA)



PROF. YUKIO MORIGUCHI M.D., Ph.D
DIRECTOR, INSTITUTO DE GERIATRIA
PUCRS

PROF. IR. NORBERTO FRANCISCO RAUCH
REITOR
PUCRS

(D R A F T)

THE RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN
THE COORDINATOR IN BRAZIL FOR TECHNICAL COOPERATION OF JICA
AND THE INSTITUTO DE GERIATRIA OF PONTIFÍCIA UNIVERSIDADE CATÓLICA
DO RIO GRANDE DO SUL
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Japanese Preliminary Survey Team, organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Michimasa NUMATA, visited the Federative Republic of Brazil from August 31st, 1993 to September 13th, 1993 and had a series of discussions with the staff of the Instituto de Geriatria of Pontifícia Universidade Católica do Rio Grande do Sul (hereinafter referred to as "PUCRS"), headed by Mr. Yukio MORIGUCHI, with respect to the framework of a training course in the field of geriatrics and preventive medicine under JICA's Third Country Training Programme, and to the desirable measures to be taken by both Governments to ensure the successful implementation of the course.

Based on the above discussions, the Coordinator in Brazil for Technical Cooperation of JICA and PUCRS agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

PORTO ALEGRE-RS,

, 1993

Mr. Isao KABURAKI
Coordinator in Brazil for
Technical Cooperation of
the Japan International
Cooperation Agency
Japan

Prof. Yukio MORIGUCHI M. D., Ph. D.
Director, Instituto de Geriatria
P U C R S
The Federative Republic of Brazil

Mr. Carlos Roberto Cristalli
Director
Brazilian Cooperation Agency
The Federative Republic of
Brazil

Prof. Ir. Norberto Francisco RAUCH
Reitor
P U C R S
The Federative Republic of Brazil

ATTACHED DOCUMENT
TO THE RECORD OF DISCUSSION BETWEEN
THE COORDINATOR IN BRAZIL FOR TECHNICAL COOPERATION OF JICA
AND THE INSTITUTO DE GERIATRIA OF PONTIFÍCIA UNIVERSIDADE CATÓLICA
DO RIO GRANDE DO SUL
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Government of Japan and the Government of the Federative Republic of Brazil will cooperate with each other in organizing a training course in the field of geriatrics and preventive medicine (hereinafter referred to as "the Course") at the Instituto de Geriatria of Pontifícia Universidade Católica do Rio Grande do Sul (hereinafter referred to as "PUCRS") under the Japan International Cooperation Agency's (hereinafter referred to as "JICA") Third Country Training Programme.

PUCRS will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from Japanese fiscal year (hereinafter referred to as "JFY") 1994 to JFY 1998, subject to annual consultations between both sides.

The Course will be conducted in accordance with the following;

1. TITLE

The Course will be entitled " Geriatrics ".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to provide the participants from Latin American countries with an opportunity to improve their knowledge and techniques in the field of geriatrics and preventive medicine, through lectures and the treating of geriatric patients at PUCRS .

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected to have :

3-1 Developed their expertise about geriatrics inclusively and systematically,

3-2 Upgraded their medical techniques of treating geriatric patients,

3-3 Cultivated their comprehensive knowledge for prevention of geriatric diseases,

3-4 Been specialists in the field of geriatrics and preventive medicine,

3-5 Studied characteristic geriatric diseases in the Federative Republic of Brazil and Latin American countries,

3-6 Understood of present conditions and prospective future trends concerning geriatrics and the causes in Latin American countries,

3-7 Qualified to apply for university lecturership in the field of geriatric medicine (CERTIFICADO DE PÓS-GRADUAÇÃO A NÍVEL DE ESPECIALIZAÇÃO EM GERIATRIA)

4. DURATION

The duration of the Course will be approximately two (2) months and the Course for JFY 1994 (hereinafter referred to as "the first Course") will be held from July 1st to August 31st, 1994.

5. CURRICULUM

Tentative curriculum of the first course is attached as Annex I.

6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following countries will be invited to apply by nominating applicant(s) for the Course:

Chile, Peru, Venezuela, Colombia, Panama, Dominican Republic, Ecuador, Bolivia, Paraguay, Uruguay, Argentine, Mexico, Costa Rica.

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed twenty (20) in total and the number of participants from Brazil shall not exceed twenty (20).

8. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are;

8-1 to be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure stipulated in 10-1 below,

8-2 to have a fundamental knowledge with respect to internal medicine,

8-3 to be presently engaged, or expected to be engaged in the future in preventing, treating and rehabilitation of geriatric patients,

8-4 to have practical experience of more than 2 years in medicine,

8-5 to be under sixty (60) years of age, and to have a good command of spoken and written Spanish or Portuguese,

8-6 to be in good health, both physically and mentally, in order to complete the Course,

9. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be given at the Instituto de Geriatria of Pontificia Universidade Catolica do Rio Grande do Sul, in the Federative Republic of Brazil.

10. APPLICATION PROCEDURE

10-1 A Government applying for the Course on behalf of its nominee(s) shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to PUCRS through Brazilian diplomatic channels not later than ninety (90) days before the commencement of the Course.

10-2 The Government of the Federative Republic of Brazil will inform the applying Governments through Brazilian diplomatic channels, whether or not the applicant(s) is/are accepted to the Course not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.

11. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE GOVERNMENT OF THE FEDERATIVE REPUBLIC OF BRAZIL

In organizing and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country.

The schedule of the first Course implementation is attached as Annex II.

11-1 The Government of the Federative Republic of Brazil

11-1-1 ABC

- (1) To forward G.I. to the Governments of invited countries through Brazilian diplomatic channels.
- (2) To receive application forms sent by the applying countries through Brazilian diplomatic channels and forward them to PUCRS.
- (3) To notify the results of the selection of participants to the respective Governments through Brazilian diplomatic channels.

11-1-2 PUCRS

- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I.
- (2) To draft and print the G.I.
- (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/ instructors for the Course.
- (4) To provide its training facilities and equipments for the Course.
- (5) To select participants for the Course and notify the Coordinator in Brazil for Technical Cooperation of JICA (hereinafter referred to as "the Coordinator") and Ministry of Foreign Affairs of the results.
- (6) To arrange accommodation for participants.
- (7) To arrange international air tickets for the participants from invited countries and to meet and see them off at the airport.
- (8) To arrange domestic study tour(s) as a part of the Course.
- (9) To take budgetary measures to cover the cost of conducting the Course, excluding the expenses

financed by the Government of Japan.

- (10) To issue certificates to the participants who have successfully completed the Course.
- (11) To submit a course report to the Coordinator within thirty (30) days after the termination of the Course.
- (12) To submit a statement of expenditure with the receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditure stated above within thirty (30) days after the termination of the Course.
- (13) To coordinate any matters related to the Course.

11-2 The Government of Japan

- (1) To dispatch Japanese short-term expert(s), in accordance with the normal procedures of its technical cooperation scheme, who give relevant advice to PUCRS and deliver some of the lectures. This, however, is subject to the JICA budget available for this purpose and to the number of suitable expert(s) in Japan. PUCRS, through ABC, is expected to pre-inform the Coordinator of the requests for JICA short-term expert(s) not later than the annual consultation.
- (2) To bear the following expenses through JICA (A tentative estimate of expenses for the first Course is attached as ANNEX III).
 - a) Expenses relevant to participants from invited countries such as international economy-class flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums.
 - b) Expenses relevant to PUCRS such as study tour(s), texts, teaching aids, expendable supplies, copies, arrangements of meetings, secretarial services and honoraria for external lecturer(s).

12. PROCEDURE FOR REMITTANCE AND EXPENDITURE

Remittance of funds for expenses to be borne by the Government of Japan and the expenditure thereof will be arranged in accordance with the following procedures:

- 12-1 PUCRS will open a bank account in Brazil to receive the funds remitted by JICA, and inform the Coordinator of the name of the bank, the account code number and the name of the account holder.
- 12-2 PUCRS will submit to the Coordinator a bill of estimate for the expenses to be borne by the Government of Japan not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 12-3 JICA will assess the bill of estimate and remit the assessed amount of expenses to the account mentioned in 12-1 above within thirty (30) days after the receipt of the bill of estimate.
- 12-4 PUCRS will submit to the Coordinator a statement of expenditures within thirty (30) days after the termination of the Course.
- 12-5 In case there is any unspent remainder of the amount remitted by JICA, PUCRS will reimburse the unspent amount to JICA as soon as the Course terminates. The funds allocated for the flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purposes.
- 12-6 When requested by JICA, PUCRS will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditures stated in 12-4 above.

13. OTHERS

This attached document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be part of the Record of Discussions:

- ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course (for JFY 1994)
- ANNEX II : Schedule of the Course Implementation (from JFY 1993 to JFY 1994)
- ANNEX III : Tentative Estimate of Expenses to be borne by the Government of Japan (for JFY 1994)

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE
FOR JAPANESE FY 1994

1. GENERAL INTRODUCTORY COURSES

Subjects	The Time Required
1-1. Geriatric Biology	20 hours
1-2. Preventive Geriatrics	20 hours
1-3. Social Geriatrics	16 hours
1-4. University Teaching Methods	60 hours
1-5. Out-Patient Clinic for the Aged	28 hours
1-6. In-Patient Clinic for the Aged	28 hours
1-7. Laboratory Practice for the Aged	4 hours

2. SPECIFIC GERIATRIC MEDICINE

Subjects	The Time Required
2- 1. Cardiology of the Aged	16 hours
2- 2. Dermatology of the Aged	4 hours
2- 3. Hematology of the Aged	12 hours
2- 4. Immunology of the Aged	4 hours
2- 5. Gastroenterology of the Aged	12 hours
2- 6. Physiology of the Aged	4 hours
2- 7. Pneumology of the Aged	12 hours
2- 8. Surgery of the Aged	8 hours
2- 9. Nephrology of the Aged	8 hours
2-10. Urology of the Aged	8 hours
2-11. Proctology of the Aged	4 hours
2-12. Psychology of the Aged	4 hours
2-13. Endocrinology of the Aged	8 hours
2-14. Radiology of the Aged	4 hours
2-15. Neurology of the Aged	16 hours
2-16. Ophtalmology of the Aged	4 hours
2-17. Otorhinolaringology of the Aged	4 hours
2-18. Orthopedics of the Aged	4 hours
2-19. Nuclear Medicine of the Aged	4 hours
2-20. Geriatric Nutrition	8 hours
2-21. Odontology of the Aged	4 hours
2-22. Phychiatry of the Aged	6 hours
2-23. Gynecology of the Aged	4 hours
2-24. Pharmacology of the Aged	4 hours
2-25. Infectious Diseases of the Aged	4 hours
2-26. Osteoporosis of the Aged	8 hours
2-27. Rheumatology of the Aged	4 hours
2-28. Anesthesia of the Aged	4 hours
2-29. Nursing of the Aged	4 hours

Total hours 366

SCHEDULE OF THE COURSE IMPLEMENTATION
(FROM JFY 1993 TO JFY 1994)

MONTH	BRAZILIAN SIDE	JAPANESE SIDE
November, 1993	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Preparation of G.I. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions
March, 1994	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Form A-1 2. Distribution of G.I. and Application Form 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Recruitment of Experts
April, 1994	<ol style="list-style-type: none"> 1. Opening of Bank Account 2. Submission of Bill of Estimate 3. Receipt of Application Form 4. Selection of the Participants 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Remittance of Expenses 2. Submission of Form B-1
May, 1994	<ol style="list-style-type: none"> 1. Notification of the results of selection 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Expert(s)
July, 1994	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of the Course 	
September, 1994	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Course Report 	

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSES TO BE BORNE
BY THE GOVERNMENT OF JAPAN FOR JFY 1994

(\$: US dollar)

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT
I. INVITATION EXPENSES		
1. Air fares (round trip)	\$ 1,200 x 20 pers.	\$ 24,000
2. Transportation	\$ 1 x 50days x 20 pers.	\$ 1,000
3. Per diem	\$ 15 x 62 days x 20 pers	\$ 18,600
4. Accomodations	\$ 45 x 62 days x 20 pers. (Porto Alegre)	\$ 55,800
5. Medical insurance	\$ 75 x 20 pers.	\$ 1,500
SUB TOTAL 1		\$100,900
II. COURSE EXPENSES		
1. Honoraria for external lecturers	\$100 x 5 pers.	\$ 500
2. Employment fee		\$ 3,000
· Secretary	\$500 X 2 pers.	
· Coordinator	\$1,000 X 2 pers.	
3. Material procurement	Copy paper, notebook, portfolio, measurement kits, oxperimental reagents etc.	\$ 5,000
	accessories and spare parts of Spector Photo Meter	\$ 2,000
4. Meeting expenses	Opening ceremony \$25 x 50 pers. Closing ceremony \$30 x 30 pers.	\$ 2,150
5. G. I. Printing		\$ 2,000
6. Textbook	\$300 x 20 books & prints	\$ 6,000
7. Other		\$ 1,000
SUB TOTAL 2		\$ 21,650
GRAND TOTAL		\$122,550

LIST OF ATTENDANTS

Japanese side	Brazilian side
<p>The Japanese Preliminary Survey Team</p> <p>Mr. Michimasa NUMATA</p> <p>Mr. Yoshiya HATA</p> <p>Ms. Yumiyo INOUE</p>	<p>PUCRS</p> <p>Prof. Ir. Norberto Francisco RAUCH Reitor</p> <p>Prof. Yukio MORIGUCHI M.D., PH. D.</p>

JICA